

## 参加学生を対象とした事後アンケート集計結果

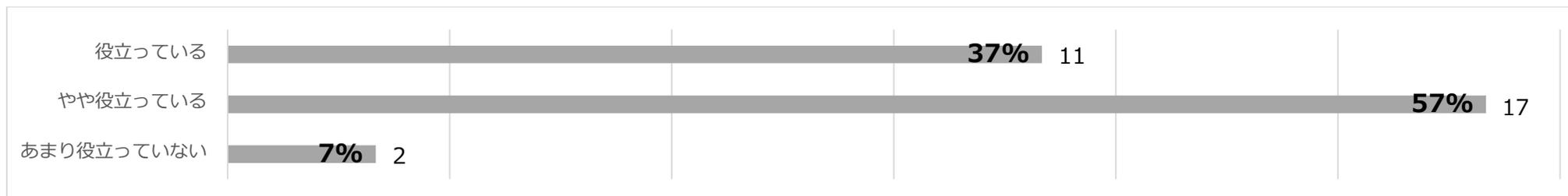
2020.2.28

第9回大学図書館学生協働交流シンポジウム事後アンケートの集計結果をお知らせします。

このアンケートは、参加者のみなさんにシンポジウムがどのような影響を与えたのかを確認することを目的とし、シンポジウム主管校である島根大学附属図書館と島根県立大学松江キャンパス図書館が実施したものです。

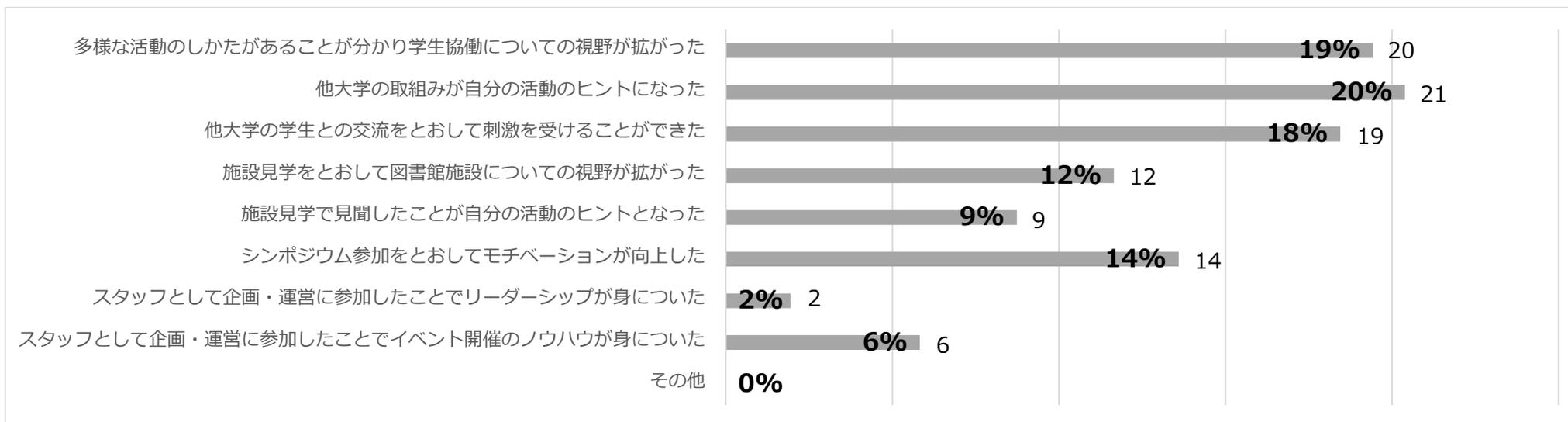
- アンケート期間： 2019年12月17日～2020年1月31日
- アンケート対象者： 第9回大学図書館学生協働交流シンポジウムに参加した学生
- アンケート提出数： 30（学生の全参加者90名／回収率33%）

### 1. シンポジウムに参加したことが、現在、活動で役に立っていますか。



パーセンテージ横の数値は回答数（以下同様）

2. 《1. で「役立っている」「やや役立っている」と答えた方を対象にした問》 シンポジウムに参加してどのような点が役立ちましたか。(複数回答可)



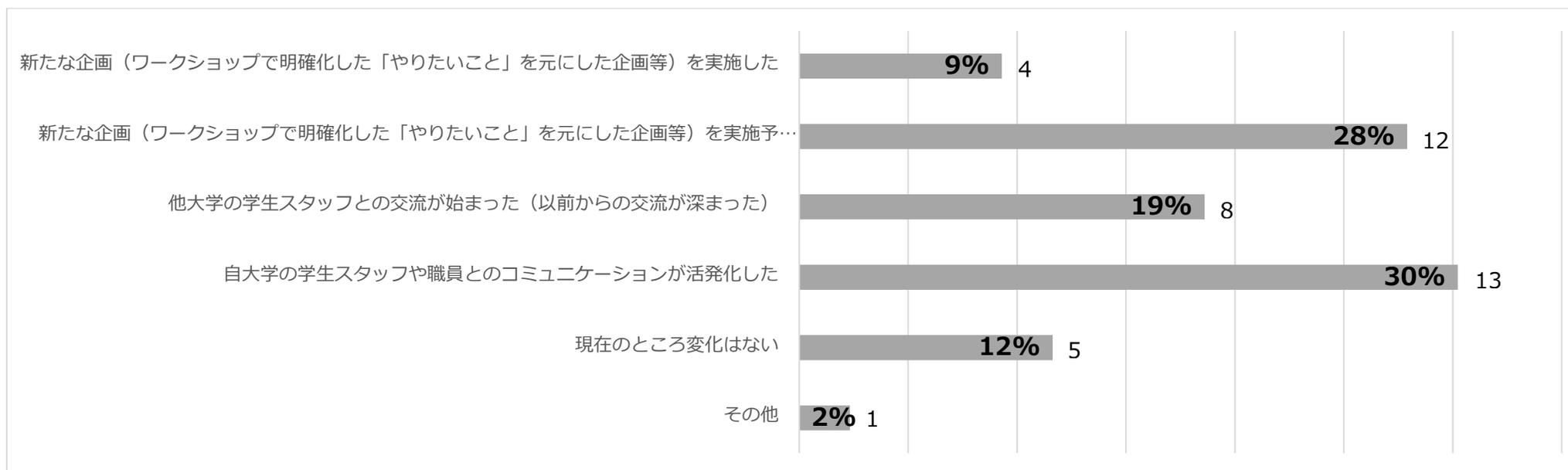
3. 《1. で「役立っている」「やや役立っている」と答えた方を対象にした問》

シンポジウムに参加して役立った点を具体的にお書きください。

- ビブリオバトルの周知のための施策
- 広報の仕方 (SNS の活用)
- 知名度の向上についてやキャラクターの利用方法
- 自分たちだけでは見つけられない新しい活動を見聞きできたことです。
- 図書館を見る目が変わった。
- 課題として出された「図書館×○○○」より企画の発想の仕方、ワールドカフェ方式より企画の練り方を学んだ。この2点においては、シンポジウムへの参加にあたって特に役立ったと考えている。
- ワークショップを通して、図書館が求めるもの、理想の図書館のイメージが変わった。今までは、勉強する場所、静かにする場所、本を読む場所などが図書館の役割であると思い込んでいた。しかし、本を読むことで知識が増えることだけではなく、ワクワクした感情などを得ることも確かにあり、それが大切だと気づいた。今まで自分が思っていた図書館のためにやりたいことは、前者に当てはまり、実際に求められるものは後者であると気づいた。
- ワールドカフェ

- 企画するための発想力
- 物事を考えるときに色々な見方が出来るようになり、これまでと違った企画案を考えられる
- 他大学で開催されていたイベント企画を、自大学で実施することができた。他大学の学生や職員の方と話すことで、人と話すスキルが身についた。
- 自身の大学では行われていない様々な取り組みを知った。そのなかで評価される点やより良くできる点について考えることができた。
- 色々な意見を柔軟に受け止めることができるようになった。アイデアをたくさん見て発想が広がった。
- 他大学がどんな活動をしているのか知ること、今後どんな活動をしていくのか参考になった。
- 他校の活動内容を見て、自分たちの活動にまだ可能性があると感じ、様々な事をしていこうと思いました。
- 大勢の人前で発表する機会があったことで、自信をつけることができた。
- 教員の方とよく話す機会があったので、図書館運営側の意見はあまり聞く機会がないので勉強になった。後日、報告会を行った際に報告を聞いた人たちが興味を示していたので、新しい構想ができそうです。
- 自分たちの図書館だからできる企画があるということに気づけた
- 次に行う企画の参考になった。

4. 《1. で「役立っている」「やや役立っている」と答えた方を対象にした問》シンポジウムに参加した後、あなたの活動はどう変化しましたか。(複数回答可)



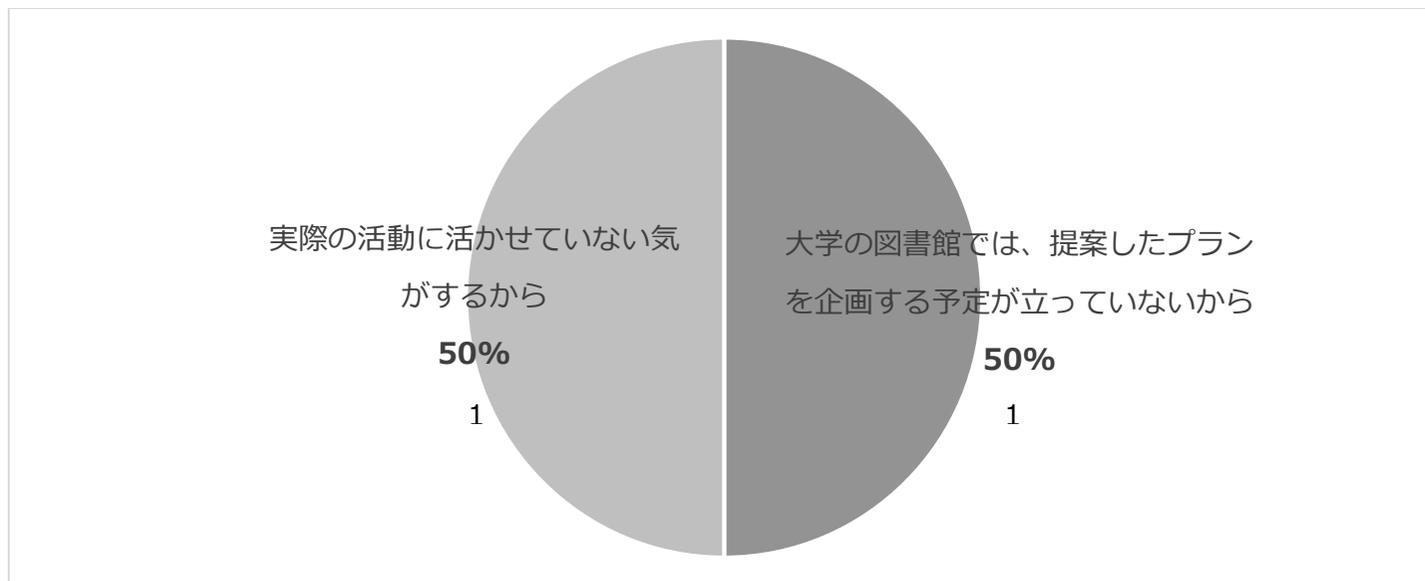
## 5. 《1. で「役立っている」「やや役立っている」と答えた方を対象にした問》

シンポジウムに参加した後、あなたの活動の変化した内容を具体的にお書きください。(自由記述から要約・抜粋)

- 本のポップなどのアイデアが浮かんだ
- シンポジウムでの立案をもとに自大学図書館で企画を進めたり、後輩への報告を通じてより独創的な企画の勃発や立案が誕生したりと、学生間の活動が活発になった。
- 思いついた企画を始める前に諦めたりせず、メンバーに相談したり実現可能な企画か考えてみるようになった。
- やりたいと思う企画が増えた。
- やりたいことが増えた
- ワークショップで「自分だったらどうか？」ということを考えるうちに、企画を考える時も同じで「利用者目線」で考えることが大事だと学びました。私はリーフレット作成をしていますが、常に「読み手」のことを考えて作るようになりました。
- 今までは、企画書を通すために細かく計画をして実行することがゴールのように思っていた。そのため、マナーを良くしようとか、本をたくさん読んでもらおうとか、図書館のための行為を模範回答はこうであるかのように作り上げて、実行していた。しかし、図書館に求めるものはそんなものではなくて、ワクワクだとかそれでもいいんだと思い、自分の大学で面白さを取り入れた企画を実施した。(ワークショップで企画した物語をリレー形式で書き進める企画を実施。)
- 別のシンポジウムで他大学図書館ボランティア団体と交流した際、大学図書館学生協働シンポジウムを紹介し、参加を呼びかけた。実際に参加して自分自身刺激になったので、是非その団体さんにも紹介したいと思えたのだと思う。関西大学 KU コアラさんという団体で、協働シンポをご存知なかったため参加してみないか誘いました。参加に前向きだったので、是非来年声をかけてみてください。来年も多くの団体さんと交流できることを楽しみにしています。
- 私は、図書館内のゲームイベントを企画する班に所属しています。現在、開催中ですが、準備や会議の段階でよく意見を出すようになりました。前に比べて、積極的に活動するようになったので来年度も可能であれば参加したいと思います。
- 同じサポーターに情報共有をし、自分達もこういうのは出来るかもと促した。
- 学外での読み聞かせやサークル仲間との意見交流など、以前より活動が多く、広範囲になりました。
- 仲間内での活動、特にビブリアバトルについて周知の方法や運営としての動きについて考え直している
- 職員さんと以前よりもコミュニケーションをとるようになりました。

6. 《1. で「あまり役立っていない」「役立っていない」と答えた方を対象にした問》

役立たなかった理由は何ですか。(複数回答可)



7. 《1. で「あまり役立っていない」「役立っていない」と答えた方を対象にした問》

役立たなかった点を具体的にお書きください。

- 私の大学の図書館は、面白いことをするというよりも、真面目な路線を貫いています。なので、路線を変えない限りは、シンポジウムで出たユニークな企画は実現しないと思います…。

以上